

「大和アート子どもくらぶ」について

これまでの審議会の中での意見（抜粋）

設立の目的は？

- ・子どもたちの主体的な文化芸術活動をサポートし、すべての子どもが文化芸術に親しめる環境をつくるための中心的なセクションとなる方が良いのではないかと。

サポートする対象は？

- ・小中学生だけでなく、高校生まで含めて考えても良いと思う。

運営主体は？

- ・学校教育を対象とした場合、実演家を適切に評価できるコーディネーターの設置が必要であると考える。
- ・学校が安心して受け入れることのできるシステム（組織）をつくっていくことが重要である。
- ・本市で実施するなら、コーディネーター以外にも協力者を育てることがカギとなってくると思う。
- ・主体性を尊重しつつ、大学や地域が一体となって進めていくことが望ましい。市は予算がないということだから、子どもたちのために協力できる人は会員になって、お金で奉仕したり、技術を提供したりと、皆で創り上げていくというようにすれば、素晴らしいものができると思う。
- ・小学校、中学校、高校と続けていき、そこで学んだ人たちがボランティア、ジュニアリーダーとして育ち、小学生、中学生を指導していくといった展開なども考えられる。
- ・大学生を入れたり、大和市で育ったポートピープルがその運営をお手伝いできたりするものになれば、新しい発想が生まれてくるのではないかと。

具体的な取り組みは？

- ・質の高い文化芸術をより多く鑑賞したいという子どもに対し、行政が企画するツアーや個人の鑑賞活動を促進するシステムをつくっても良いのではないかと。
- ・大和市に申請をして、数百円でも良いので学割のようなものを受けられる制度はどうか。
- ・子どもが何かを観て、それに対するレポートを市に提出し、それが優秀であれば広報等に載せてあげたり、記念品が貰えたりというのはどうか。
- ・学校側も芸術鑑賞授業の重要性は理解しているが、それを実施するための情報がまったくない状況に不安と負担を感じているのではないかと。大和アート子ども倶楽部に依頼すれば、質の高い授業が実施できるということになれば歓迎されると思う。
- ・子どもたちはミュージカルやオペラ、伝統芸能など多彩な文化芸術の体験ができるようにする。
- ・子ども文化芸術フェスティバルのようなものをつくって開催する。
- ・多文化共生を実現するための大和アート子ども倶楽部の取り組みも考えられるかもしれない。子どもを糸口として多文化共生を進めていくことは良いアプローチかも思う。
- ・障がいのある方のための取り組みも入れて欲しいと思う。
- ・裏方の仕事は見えにくく、また、こういった職業を目指そうと考えてもらえるチャンスやきっかけもなかなかない。子どもたちには、皆が協力し、助け合って、作品を創っている構造を分かっけてほしい。
- ・文化芸術を指導する方たち、ボランティアの質を高めていく取り組みも必要であるとする。